

令和元年度

印旛地区教育研究集会

生活科分科会 提案資料

研究主題

気付きの質を高め、  
深い学びを実現する生活科学習の在り方



第2部会 成田市立豊住小学校  
鈴木 久美子  
神崎 明代

# I 研究主題及びその設定理由

## 気付きの質を高め、深い学びを実現する生活科学習の在り方

～設定理由～

(1) 学習指導要領から

【生活科の目標】

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身につけるようにする。(知識及び技能)
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性)

この育成に向けては、『『児童の主体的・対話的で深い学びの実現』を図るよう

にすること』とある。

### ～生活科における「深い学び」とは～

自分自身や自分の生活について考え、表現することにより、気付きの質が高まり、対象が意味づけられたり価値付けられたりするならば、身近な人々、社会及び自然は自分にとって一層大切な存在になってくる。このような「深い学び」の実現こそが求められるのである。

また、「生活科においては、気付きの質の高まりが深い学びであると捉えることができる。」とある。  
(学習指導要領の解説より)

以上のことから、「気付きの質を高めること」そして「深い学びを実現する授業の実現」が必要であると捉え、主題とした。

(2) 学校教育目標とこの育成を目指すための資質・能力から

《学校教育目標》

ふるさとを愛し 共に未来を拓く 児童の育成

《3つの資質》

自律性・協働性・創造性

《4つの能力》

見出す力・結ぶ力・明らかにする力・やり抜く力

学習指導要領の資質能力を踏まえて、本校の目指す資質能力との関連を次のように捉え、児童を育成していきたいと考えている。

自律性・・・自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活する態度を育む。  
(学びに向かう力、人間性)

見出す力・・・探求心をもち続け、様々な気づきや次なる課題を見出す力を育む。  
(思考力、判断力、表現力) (学びに向かう力、人間性)

結ぶ力・・・自分と身近な人々、及び自然との関わりに気づき、それらに愛着をもって生活しようとする態度を育む。  
(知識及び技能) (学びに向かう力、人間性)

明らかにする力・・・活動や体験したことを振り返り、表現し、気づきを明らかにしていく力を育む。  
(思考力、判断力、表現力) (学びに向かう力、人間性)

このような資質・能力を育てることを意識して生活科の授業を実践していくならば、自ずと「気づきの質を高め、深い学びの実現」を目指すことにつながると考えた。

### (3) 本校における研究の経緯及び方針から

本校では昨年度より生活科と総合的な学習の時間を研究科目として、授業実践や研修に取り組んできている。

#### 30年度

#### 生活科研究主題・・・「生き生きと表現する児童の育成」

- ・児童は明るく素直だが、児童数が少ないために日々の生活の中で、意識して表現しなくても理解されやすく、また自分の意見や考えを持たず表現することを苦手としている児童も多くいる。そこで、自分の考えをもち主体的に学習に取り組む児童の育成と、自分の考えを伝える力の育成を目指した。

- 《成果》
- 児童の思いや願いから始まる活動や体験を十分に行ったことで、表現したいという気持ちを高めることができた。
  - 動作化、劇、クイズなど多様な表現方法をすることで自分たちが表現したい方法を選ぶことができ、意欲につながった。
  - 観察や活動をする中での気づきをすぐにはるかに書くように、ミニカードと筆記用具を用意しておくことで、気づきを書きためておけるようにし、気づきが増えたことを実感できるようにした。

- 《課題》
- ▲ 「表現」に特化した研究に留まってしまい、自分の成長に気づいたり、自分の生活をより豊かにしていったりという気づきの質の向上が十分に指導できなかった。
  - ▲ ミニカードを掲示しておくことで、他の友達の気づきを目にすることはできたが、気づきを共有することで新たな気づきを生み出したり、自分の気づきと関連付けたりする学習まで至らなかった。

## 令和元年度

今年度の学校教育目標及び児童の実態から研究目標を「自ら思考し、考えを広げ深める児童の育成」とした。昨年度に引き続き、主な研究教科・領域は生活科と総合的な学習の時間とし、授業実践や研修を行っている。

本校は全校児童数45名で、各学級も少人数である。そのため、考え方、表現の仕方、交流する友達などが限られてしまうことが多く、1人の正解と思われる発言に誘導されてしまい、考えを広げ深めることが難しいことが多い。また、一人ひとりを見ると、そもそも「考える」ということに意欲があまり見られず、実際のところ、発達段階からみても考えるためにはどうすればいいのかという方法はまだ分かっていないのが現状である。

そこで、「考える」ということを中心課題として取り組んでいくこととした。まずは自ら課題解決に向けての気づきや問いについて考えようとする意欲をもたせ、それぞれの考えをもたせること。そして他者との交流や考えるための技法を活用するなどして、自分の考えを広げ深めたりできるようにしていきたいと考えている。生活科においては、考え、表現することを通して気づきの質を高める学習を進めていきたい。

### 《生活科と総合的な学習の時間を主な研究教科・領域とした理由》

- ① 今回の学習指導要領の改訂では、改めて総合的な学習の時間が教育課程の中核に位置づけられるべきと考えたから。
- ② 学習指導要領に「生活科の具体的な活動や体験を通して考え、問題を解決しながら自らの思いや願いを実現していく学習は総合的な学習の時間に連続し、発展していく」と明記されている。このことから、生活科は教育課程の中核となる総合的な学習の時間の重要な学習基盤を担っていると考えたから。

### 《生活科から総合への連続・発展の捉え方》

児童が生活の中で様々なことに気づき、課題を見つけ、探究し続けていく力は生活科から総合的な学習の時間の学習へと連続し、発展していくと捉えた。

《総合的な学習の時間》 資質・能力：自己の生き方を考えていく力



#### 【両学習に共通する力】

- 気付く力
- 課題を見出す力
- 探究する力

《生活科》 資質・能力：自立し生活を豊かにしていく力

1・2学年のうちに気づきの質を高め、深い学びを実現することを通して自分の生活を豊かにしていく経験を積み重ねていくことは、総合的な学習の時間の大事な学習基盤を築いていくことができると考えている。

以上の(1)から(3)の理由から「気づきの質を高め、深い学びを実現する生活科学習の在り方」の実践を明らかにすることを目指し、研究主題をこのように設定した。

## II 「気づきの質の高まり」の捉え方

気づきの質（段階）		児童の状況	気づきの質を高めるための教師の手立て
3	自分自身へ気づき	自分の成長を感じる 自分の生活について考える 自分の気づきとして実感を伴って捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返らせる (言葉・絵・動作化・劇化など)</li> <li>○様々な学習に取り組ませる (比べる, 例える, 試す, 見通す, 工夫するなど)</li> <li>○興味をもたせる (直接体験, 友達の気づきを知る, 興味を持たせるための声かけなど)</li> </ul>
2	一つ一つの気づきから関連された気づき	原因・理由・関連性を考える	
1	無自覚なものから自覚された気づき	見つける	
0	無自覚	気付いていない	

気づきの質の高まりは、次の活動への意欲となり、主体的に考え、新たな気づきを生み出すことにつながっていく。

### Ⅲ 研究仮説

生活科の研究主題に迫るため、以下の仮説を設定し、それを実現するための具体的な工夫を考えた。

#### 仮説①

気づきを整理し、これをもとに考える際の支援を工夫すれば、気づきの質が高まり、深い学びにつながるだろう。

《具体的な工夫について》

#### ○ 場の設定の工夫

- ・より質の高い気づきを生み出していけるように、児童が気付いたことをすぐにメモをとれる場を用意し、一瞬一瞬の気づきがきちんと残るようにする。
- ・ペアやグループ、時には全体などで気付いたことを伝え合ったり、共有したりする場を用意し、自分の気づきを整理したり、新たな考えを生み出したりすることができるようにする。

#### ○ 思考ツールの活用の工夫

- ・児童が気づきを明らかにして、それを確かなものにしたり、そこから新たな課題を発見したりしやすいように思考ツールを用いて整理された板書をする。その際、児童が自ずとその思考ツールの形や使い方も理解できる板書構成に配慮する。
- ・無自覚だった気づきを明確にしたり、様々な気づきを関連づけたりして思考を整理していけるように、「評価する」「関連づける」「比較する」などの考える技法とそれに対応する思考ツールを活用する。

#### ○ 振り返りの手立て

- ・自分の気づきとして自覚できる振り返りや自分の成長を感じられる振り返りができるように、自分の実感を言葉などで表現させる。
- ・振り返りしやすいように、黒板や掲示物に学びの足跡を残すようにする。

#### 仮説②

探究心を持って、考えることを続けられる支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

《具体的な工夫について》

#### ○ 自分との関わりを深める工夫

- ・児童が直接対象に働きかけながら自分との関わりを深めることで、知的好奇心や探究心などを持てるように、児童の思いや願いに沿った活動や体験を展開する。そのためには児童の思いや願いの収集、見極めを行うことで魅力のある活動や体験ができるようにする。

○ 考えるための教師の言葉かけの工夫

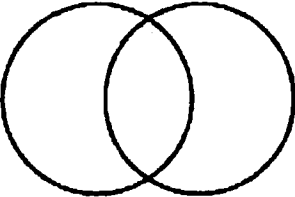
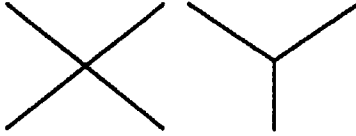
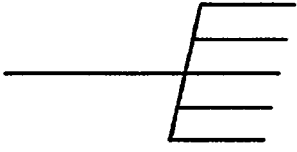
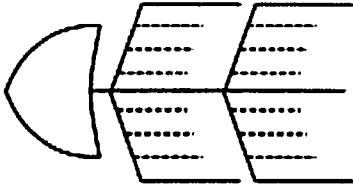
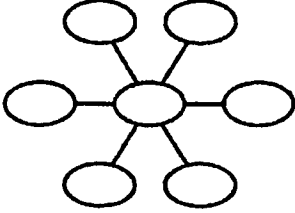
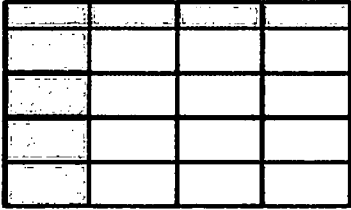
- ・ 児童が疑問（はてな）をたくさん持って探究心を持ち続けられるような教師の意図的で効果的な声掛けをする。

「友達と同じところはどうだろう」「友達とどこが違うかな。」（見付ける・比べる）  
 「どうしてこうなるのかな。」「どうやってやったの。」（原因，理由を考える）  
 「もっと～するためにはどうしたらいいのだろう。」（試す 工夫する）  
 「他にどんなことができるかな」（工夫する）  
 「本当に～でいいのかな。」（再思考する 試す）  
 「～したらどうなるだろう。」「～してみたらどう。」（見通す 試す 工夫する）

○ 思考ツールの活用の工夫

- ・ 児童が自ら課題を考え課題設定できるように，考えるための技法（例えば「比較する」「分類する」「関連づける」など）とそれに対応する思考ツール（ベン図・Xチャート・Yチャート・イメージマップなど）を使う。

《思考ツールの例》

<p><b>ベン図</b> 比較する</p>	<p><b>X Yチャート</b> 分類する</p>	<p><b>くまで図</b> 多面的に見る</p>
		
<p><b>ポーン図</b> 構造化する</p>	<p><b>イメージマップ</b> 関連づける</p>	<p><b>マトリックス</b> 分類する 多面的・多角的に見る</p>
		

## IV 研究の具体的内容

1 単元名 みんなに ささえられているんだね（「わたしのがっこう どんなところ」）

### 2 単元の目標

- ・友だちや先生，学校を支える人々に親しみ，楽しく学校生活を送ることができる。  
(生活への関心・意欲・態度)
- ・学校の施設の利用および学校生活を支えている人々や友だちとのかかわりなどについて，自分なりに考えたり，表現したりする。  
(活動や体験についての思考・表現)
- ・自分たちの学校生活を支えてくれている人の存在と自分との関わりに気付くことができる。  
(身近な環境や自分についての気付き)

### 3 仮説とのかかわり

本単元では，児童の頭の中で広がるさまざまな気付きを整理し，その気付きをもとに考えることを通して，気付きを確かなものにしたり，新たな課題を発見したりできるようにしていきたい。そのために，以下のような手立てで指導に当たる。

#### 【仮説①】

気付きを整理し，それをもとに考える際の支援を工夫すれば，気付きの質が高まり，深い学びにつながるだろう。

#### ○ 思考ツールの活用の工夫

児童が課題を見つけたり，整理したりする際には，どのように考えればよいか分かり，考えやすくするために思考ツールを活用していく。今回は自分を中心に置き，人とのつながりや関係を捉えやすくするために，コンセプトマップを使うこととする。お世話になったり，関わりがあったりする先生方と自分を線で結んでいく。だんだんつながっていくことに楽しさを感じながら行うことができるだろう。また，つながりが見つけられなかったときも，どんな関わりがあるのか知りたいと感じ，次の活動のきっかけとなる。自分の課題を見つけ，活動のきっかけとなり，さらに活動で気付いたことが整理されれば，気付きの質が高まり深い学びへとつながると考える。

#### ○ 振り返りの手立て

活動や体験をした後には，気付いたことや振り返りを言葉で表現させていくことで，無自覚な気付きが自覚されていくと考える。絵日記，ミニカードを使い分けながら，自分の気付いたことを言葉で伝える時間を確保する。その際，まだ書くことが難しい児童もいるため，絵や記号によって表現したものを聞き取り，書き言葉に直していくという段階を踏むなどの配慮を行う。



【仮説②】

探究心をもって、考えることを続けられるような支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

○ 考えるための教師の言葉かけの工夫

教師が意図的に、児童の活動の中に自ら考えたり、今までの気づきが結びつけられたりするような言葉や発問を投げかけていく。「どうしてなのかな。」「友だちとちがうところはどこかな。」などと、比較したり今までのことを関連づけたりして考えられるように声をかけていく。児童の知的好奇心や探究心を刺激すれば、自ら思考し、深い学びへとつながっていくだろう。

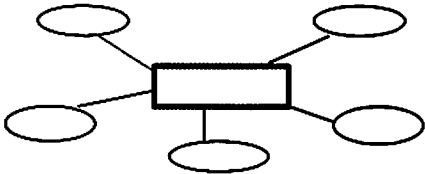
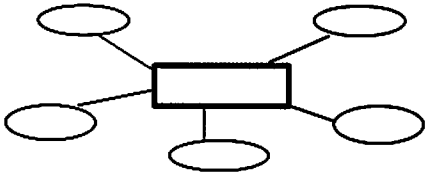
○ 自分との関わりを深める工夫

子どもたちの思いを生かして、主体的な学習にできるようにしたい。単元の導入では、2年生との学校探検を行う。探検を振り返り、友だちと共有していく中で、「もっといろいろな場所が見たい。」「まだわからないことがあったから知りたい。」などの思いを持たせ、次の活動につなげていく。このように児童の思いや気づきのもととなり、繰り返し活動を行うことで、気づきの質が高まり、深い学びへとつながっていくことを期待する。

4 指導計画

単元	「みんな なかよし」		
小単元	「わたしのがっこう どんなところ」		
第1次	「ともだちたくさん つくろう」	2時間	
第2次	「わたしのがっこう どんなところ」	8時間	

時	学習内容と活動	評価の観点／評価の方法
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     がっこうにはどんなものがあるんだらう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の見通しを持たせる。(仮説②)</li> <li>・2年生に案内してもらいながら、学校探検を行う。</li> <li>・見つけてきたもの、もっと知りたいことを話し合う。(仮説②)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間や約束を守って、楽しく探検しようとしている。(関／行動観察)</li> <li>・学校探検で見つけてきたものを、自分なりの方法で表現している。(思／ワークシート)</li> </ul>
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     がっこうのことをもっとよくしろう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目の探検でわからなかったところ、もっと知りたいことをもとに、1年生のみで探検を行う。(仮説②)</li> <li>・見つけてきたことを発表し合う。</li> <li>・探検かるたを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりのめあてを持って探検を行おうとしている。(関／行動観察)</li> <li>・学校の施設の様子とその役割に気付いている。(気／発言分析・作品)</li> </ul>

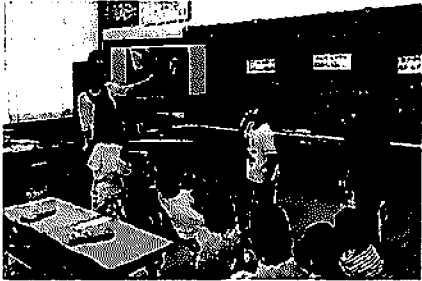
1	<p>どんなことをしてもらっているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく過ごしている学校生活で、人にしてもらっていることをイメージマップを用いて自由に想起する。 (仮説①)</li> <li>・どんな先生方と関わっているのか、どんなことをしてもらっているのかを付箋に書きだす。(仮説①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活でお世話になっている先生方と自分との関わりを考えようとしている。(思/行動観察・発言分析)</li> </ul> <p>※イメージマップ</p>  <p>※付箋紙</p>
1	<p>どんなことをしてもらっているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方にしてもらっていることを発表し合い、共有する。</li> <li>・先生方にしてもらっていることから、自分との関わりをコンセプトマップにまとめながら考える。(仮説①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活でお世話になっている先生方と自分との関わりを考えようとしている。(思/シート・発言分析)</li> </ul> <p>※コンセプトマップ</p> 
1	<p>どんなことをしてもらっているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務員、校長、用務員がどのようなことをしてくれているのか予想する。</li> <li>・インタビューに行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方に進んでインタビューをしている。(関/行動観察)</li> <li>・相手に合わせた言葉遣いで、聞きたいことを伝えている。(思/行動観察)</li> </ul>
1 (本時7/8)	<p>どんなことをしてもらっているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューをしてわかったことを発表し合う。</li> <li>・もう一度、先生方と自分たちの関係を考える。(仮説①, ②)</li> <li>・先生方に手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活でお世話になっている先生方と自分との関わりを考えようとしている。(思/シート・発言分析)</li> <li>・学校内にいる先生方が自分たちの学校生活を支えてくれていることに気付いている。(気/発言分析・記述)</li> </ul> <p>※コンセプトマップ</p>
1	<p>どんなことをしてもらっているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校以外の先生方がなぜ学校に来てくれているのかを話し合う。(仮説②)</li> <li>・こめっこクラブ、読み聞かせボランティアの方々の話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々と自分たちの関係を考えようとしている。(思/シート・発言分析)</li> <li>・自分たちの学校生活が、地域の方々にも支えられていることに気付いている。(気/発言分析・記述)</li> </ul>

5 本時の指導

(1) 目標

- ・学校生活でお世話になっている先生方と自分との関わりを考えようとする。  
(活動や体験についての思考・表現)
- ・学校内にいる先生方が自分たちの学校生活を支えてくれていることに気付くことができる。  
(身近な環境や自分についての気付き)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 (評価方法)	資料
3	1 前回までの振り返りと、本時の学習のめあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     どんなことをしてもらっているのかな。                 </div>	・学習の見通しがもてるようにこれまでの学習も振り返るようにする。	前時までの掲示物
12	2 インタビューをして聞いてきたことを発表し、つながり確かめる。 ・先生方のしてくれていることやその理由でわかったことを発表し、共有する。 ・自分たちのためにしてくれていることを確認し、支えられていることをおさえる。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                         T:「どうして内山先生はお花を植えてくれているんだろう。<u>お花が好きだから?</u>」                          C:「ちがうよ!」                          C:「学校をきれいにするためだよ。」                          C:「学校に来るのが嬉しくなる。」                           ⇒逆説的な発問をすることにより、児童は自分の聞いてきたことや見てきたことをを関連づけて理由を考えるようになる。                          【気付きの高まり】(仮説②)                     </div>	・その先生方のことしてくれていることが想起しやすいように仕事をしている様子を写真で示す。 ・お互いに話しやすい雰囲気を作るために、円で伝え合う。   ・どうしてその仕事をしてくれているのかを考えるように助言する。	写真 コン セプ トマ ップ

7

3 完成したコンセプトマップを見ながら、先生方と自分との関係を考える。

「全部の先生方と線でつながったよ。」

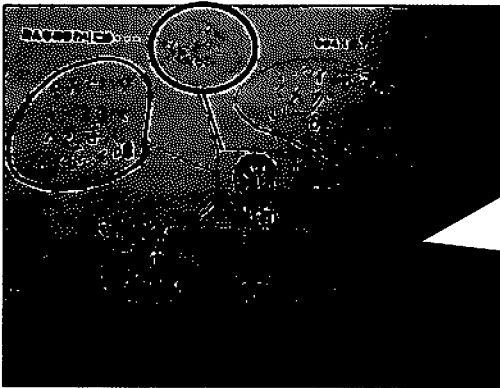
「いろんなことをしてもらっているんだね。」

T: 「初めは神崎先生と教頭先生だけしか名前が出てこなかったけど、今はどうかな？」

C: 「〇〇先生のこと書くよ。」

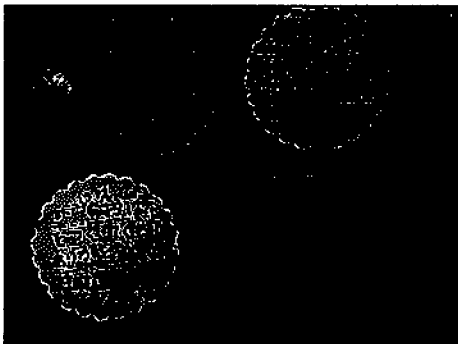
C: 「ぼく、こんなに〇が増えたよ。」

⇒比較をさせることで、以前の自分よりもたくさん気付くことができたことを実感できるようになる。【気づきの高まり】

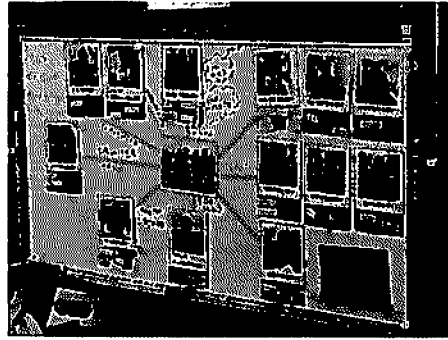


15

4 先生方に手紙を書く。



・1年生とつながっている線が、支えてもらっていることだということをていねいに押さえる。



・以前行ったイメージマップと比較させ、よりたくさんの人にお世話になっていることに気付いた自分に気付かせるようにする。

○学校生活でお世話になっている先生方と自分との関わりを考えようとしている。

(思/発言分析・ワークシート)

以前行ったイメージマップに、改めてお世話になっていると実感できた先生方を赤で付け足させた。つながりの線が増えていくことで、いろんな先生方にもお世話になっていることがわかりやすくなった。

(仮説①)

○学校内にいる先生方が自分たちの学校生活を支えてくれていることに気付いている。

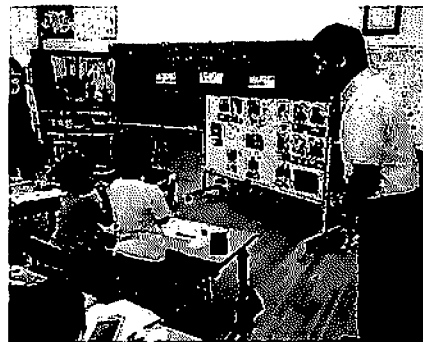
(気/発言分析・記述)

・手紙の大きさを2種類用意し、文字の大きさや書くことのできる分量で無理なく選べるようにする。

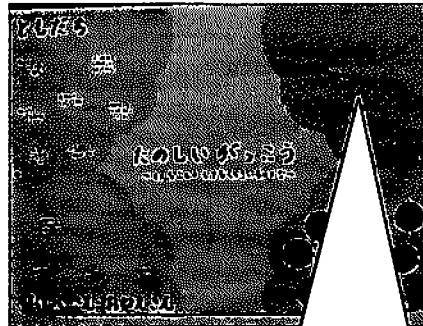
「先生がいないとき、2年生の公美先生が音楽とかを教えてくれる。」  
「いつもお花を作ってくれてありがとうございます。」  
「けがを治してくれる。飯田先生、いつもありがとうございます。」

⇒以前は名前が挙がっていなかったが、先生がしてくれていることに気付くことができた。また「いつも」という言葉から、日常的にいろいろなことをしてもらっていたことに気づき、自分自身との関わりが理解できたことがわかる。

5 5 手紙の内容を共有する。



3 6 次時の見通しを持たせる。  
・ボランティアでお世話になっている地域の方々とのつながりを考えることを伝えておく。

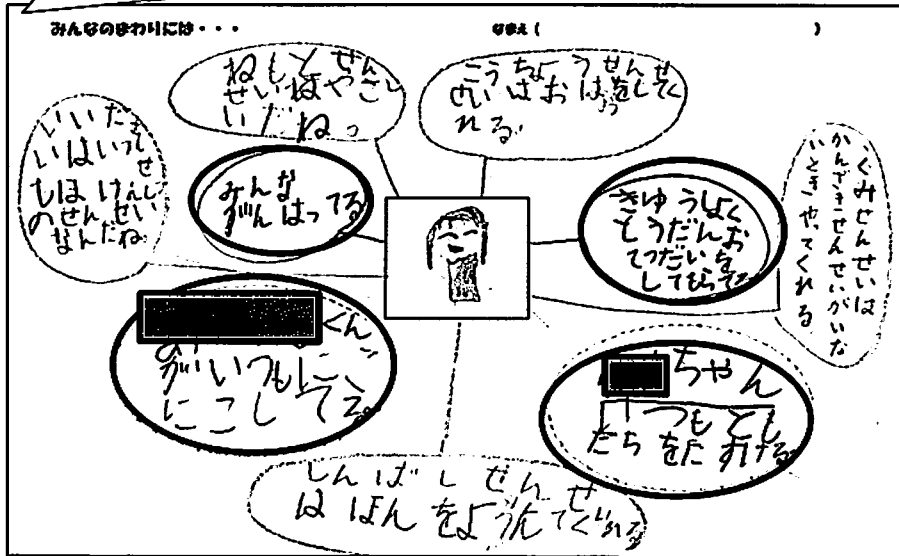


空欄を作っておき、すでに確認した「友だち」「上級生」「先生方」以外にも支えてくれている人々がいることに気付かせ、関心をもたせた。(仮説②)

6. 児童の変容

【抽出児童 A】

《発問》みんなのことを助けてくれたり、みんながお世話になったりしている人はだれかな。



《教師の声かけ》

〇〇くんにはこうだったけど、自分にはどうか。(関連づける)

どうして内山先生はお花を植えてくれているんだろう。(理由付けを促す)

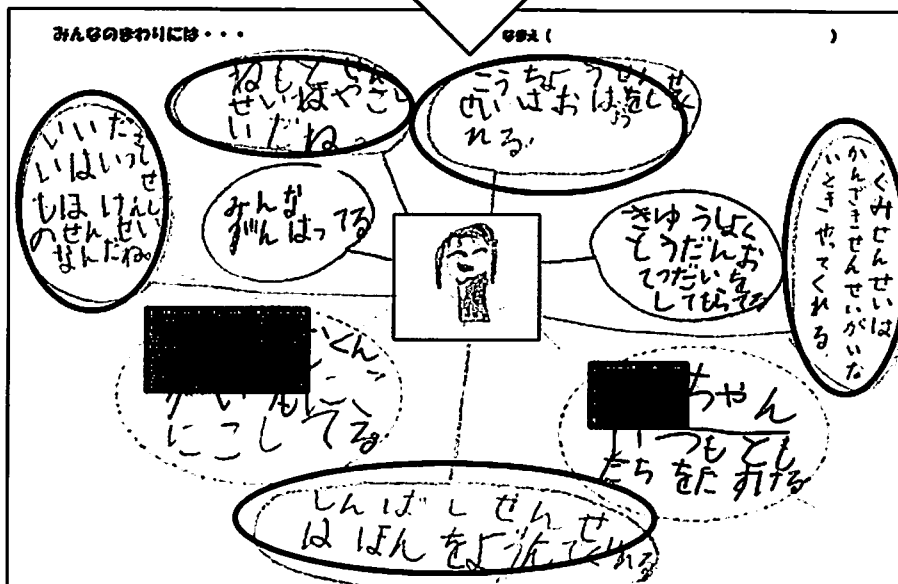
明日も先生方が何をしてくれているか見つけられるかな。(日常化を促す)

《手立て・活動》

インタビュー

友だちとの意見交流

仮説①【思考ツールの活用の工夫】  
コンセプトマップ



《児童のコンセプトマップより》

導入時	授業後につけたされたもの	地域の方々の話を聞いた感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・きゅうしょくとうばん おてつだいしてもらってる。</li> <li>・〇〇ちゃん いつもともだちをたすけてる。</li> <li>・〇〇くん いつもにこにこしてる。</li> <li>・みんな がんばってる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いいだせんせいは、いつもほけんしつのでせんせいなんだね。</li> <li>・ねもとせんせいは やさしいんだね。</li> <li>・こうちょうせんせいは おはようをしてくれる。</li> <li>・しんばしせんせいは ほんをよんでくれる。</li> <li>・くみせんせいは かんざきせんせいがいないとき やってくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しんばしさんは がっこうにくるのがうれしいんだね。だから <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(わたし)</span> もうれしい。</li> </ul>

・友だちのいいところは見つけられているが、自分との関わりでは捉えられていない。「友だちのことを助けているが、自分は助けられていない」と話していた。



- ・自分に対して「～してくれる」というように、自分との関わりが実感できている。
- ・学校生活で、友だち以外にも先生や地域の方が支えてくれていることに気がつき、マップに書き込むことができている。
- ・地域の方との関わりが、自分の喜びになっている。

【抽出児童 B】

《発問》みんなのことを助けてくれたり、みんながお世話になったりしている人はだれかな。



《教師の声かけ》

どうして内山先生はお花を植えてくれているんだろう。(理由付けを促す)

これは何をしているのかな。(自覚を促す)

初めは〇〇だけだったけど、今はどうかな。

(比較・自分の成長への気づきを促す)

たくさんの先生方に支えられているんだね。

(価値付けをする)

《手立て・活動》

インタビュー

友だちとの意見交流

仮説①【思考ツールの活用工夫】  
コンセプトマップ





《児童のコンセプトマップより》

導入時	授業後につけたされたもの	地域の方々の話を聞いた感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・かんざきせんせい おしえてくれる。</li> <li>・〇〇ちゃん らんどせるをとってくれる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・2名しか名前をあげることができなかった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いいだせんせい (けがをなおしてくれた。)</li> <li>・れまちゃん。</li> <li>・〇〇 (姉) いっしょにねてくれる。</li> <li>・くみせんせい かんざきせんせいがいないとき、きてくれる。</li> <li>・すずきせんせい いつもほめてくれる。</li> <li>・みずませんせい あいさつ</li> <li>・ないとうせんせい ななふしぎをかしてくれる。</li> <li>・かわしまきょうとうせんせい <u>うれしくってなみだができるよ。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みまもってくれてありがとう。いっぱいいっぱいありがとう。<u>(ありがとうの気持ちが)もうとまらない。</u></li> </ul>



・授業後は、友だち、先生方、家族といろいろな場面でお世話になっている人の名前を、たくさん挙げる事ができている。

・「うれしくってなみだができるよ。」「いっぱいいっぱいありがとう。(ありがとうが)とまらない。」など、支えられていることへの感謝の気持ちを表現している。

## 7. 考察

### 【仮説①】

気づきを整理し、それをもとに考える際の支援を工夫すれば、気づきの質が高まり、深い学びにつながるだろう。

### 《場の設定の工夫》

- 児童の学習の足跡や気づきが残る掲示物を作成し、掲示しておくことで、日常でふとしたときに児童が目にし、話題に出してそこから対話が生まれていた。
- 円を作り、児童同士が顔を見ながら自由に話すことのできる隊形にしたことで、児童の対話が活発になった。
- ▲今回の單元では、グループ単位で活動することが多く、グループでの交流→全体での共有としていったが、入学したばかりの1年生は個の思いが強く、他者と気づきを共有しながら高めていくことに課題があった。



発達段階と児童の実態に応じて、学習形態の工夫が必要。「スタートカリキュラム」の視点での指導・手立てがあるとよいだろう。

- ・親しい友だちとの人間関係を軸に、活動・交流を広げていけるように配慮する。
- ・話の聞き方・伝え方は国語科を中心とし、言葉による伝え合いが豊かになるよう合科的・関連的な指導を進める。
- ・探検や活動の様子を想起しやすくしたり、友だちに伝える際の手助けとなったりするように、写真を撮っておき活用する。

### 《思考ツールの活用の工夫》

- コンセプトマップは、線でつながっていくことで自分との結びつきを視覚的に捉えるには有効であった。
- 児童がどのような人と関わっているかを考えるための手段として、イメージマップを使用した。1年生にも使いやすく、視覚的にもわかりやすい思考ツールだと感じた。

### 《振り返りの手立て》

- 振り返りの際に、初めの頃に使用したワークシートや掲示物を用いて、学習の前後を比較させることで、自分の成長を実感できていた。

## 【仮説②】

探究心をもって、考えることを続けられるような支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

### 《自分との関わりを深める工夫》

- 日常生活の中でしてもらっているが、自分との関わりとして気付いていなかった無自覚なもの（例えば、「掃除中の見回り」「廊下でのあいさつ」「プールの管理」など）を写真で示したことで、自覚された気付きへと高めることができた。
- 児童の思いや疑問に沿った活動を取り入れたことで、意欲が持続していた。
- ▲自分と友だちがそれぞれインタビューで聞いてきた内容に違いがあったとき、全体で共有しても納得ができない児童がいた。1年生のこの時期は、自分の気付きが気付きであり、他の友だちの気付きを自分のものとして取り入れることは難しかった。



「もう一回、〇〇さんも聞いて確かめてみたら？」と返して、児童自身に確認させ、友だちの気付きを得られるようにする。

友だちの気付きは、その都度自分でも確認させ、納得させることを繰り返し行っていくことで、友だちの気付きも自分のものとして受け入れることができるようになるだろう。

- ▲授業を通して実感したたくさんの人とのつながりを、授業の中だけで終わらせることなく、普段の生活の中に根付かせていけるよう、これからも継続して支援を続けていく必要がある。



「今日はどんな先生方とお話ししてきたの？」「ボランティアの〇〇さんが学校に来ていたよ。どうしてかな？」など、日頃の言葉かけを行っていく。また地域の方々には、植物の栽培や昔遊びなどの単元でも関わりをもつことができるよう、計画していく。

### 《考えるための教師の言葉かけの工夫》

- 理由を考えたり、比較して違いを考えたりすることを、教師の発問で意図的に取り入れていくことで、児童は自分の経験や友だちの意見を関連させながら、実感を伴って気付きを捉えることができるようになった。

### 《思考ツールの活用の工夫》

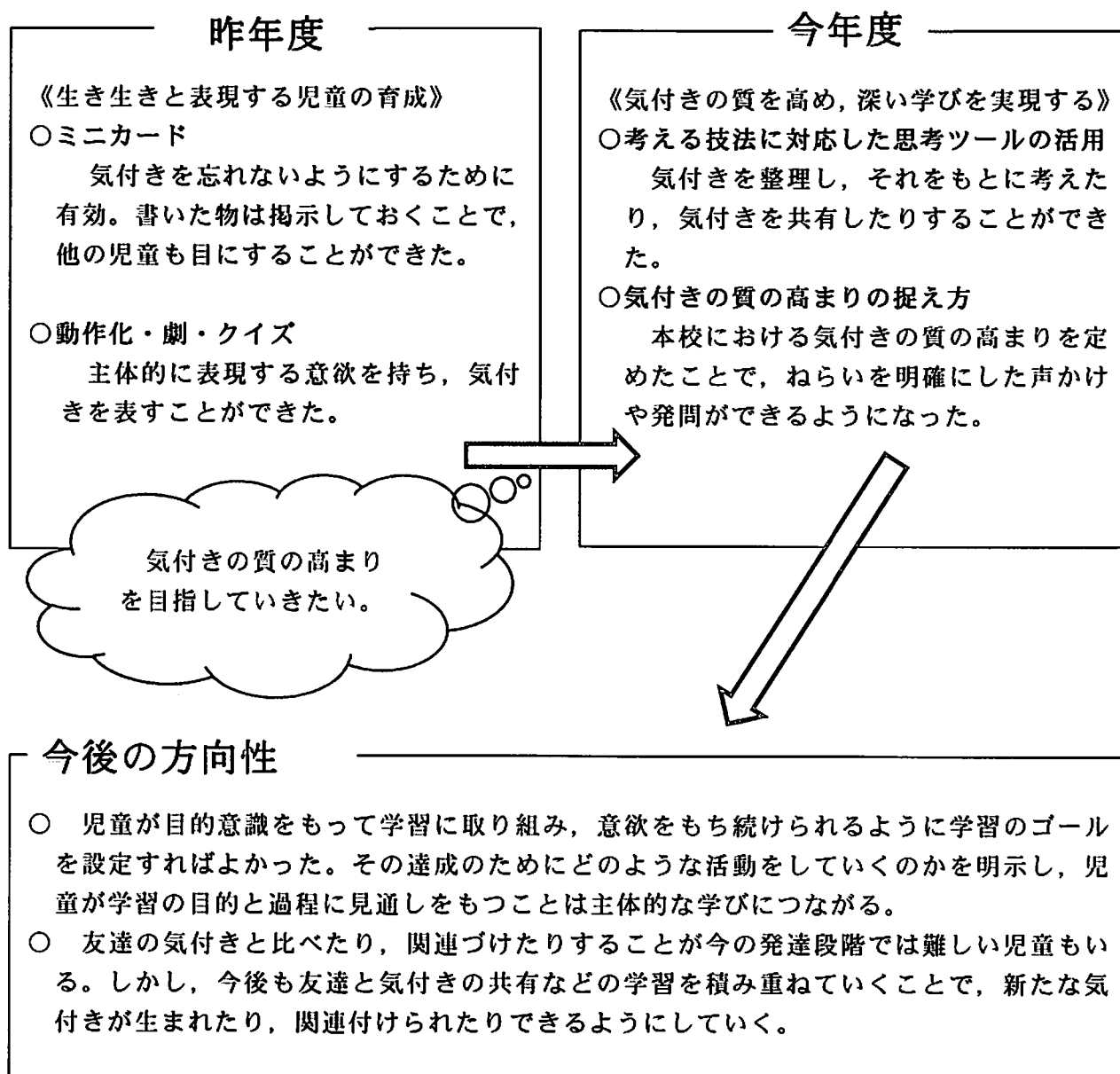
- ▲思考ツールは、気付きを整理するには有効であったが、整理したことから課題を見つけて、考えたり、探究したりすることは難しかった。



この時期は、思考ツールで整理をし、新たな課題を見つけるために、教師が声をかけていくことが必要である。継続していくことで、3年生以降の総合的な学習の時間につながっていくと考えられる。

## V 研究のまとめ

本校では昨年度より生活科を研究科目として、授業実践や研修に取り組んできた。2年間を振り返っての成果や課題、今後の方向性について考える。



※以下の指導案は、昨年度実施の指導案を、今年度の研究の成果と課題を踏まえて、作り直したものである。

## 第1学年1組 生活科学習指導案①

### 1 単元名 すてきなあき みいつけた

### 2 単元の目標

- ・身近な自然に関心を持ち、諸感覚を使ってかかわり、楽しく遊ぼうとする。  
(生活への関心・意欲・態度)
- ・秋の自然と遊んだ楽しさや気づきを、自分なりに工夫して表現することができる。  
(活動や体験についての思考・表現)
- ・身近な自然とかかわり、季節の変化に気付くことができる。  
(身近な環境や自分についての気づき)

### 3 仮説との関わり

#### 仮説①

気づきを整理し、それをもとに考える際の支援を工夫すれば、気づきの質が高まり、深い学びにつながるだろう。

#### ○ 場の設定の工夫

児童が気がついたことをすぐにメモにとれる場を用意し、気づきが残るようにする。常に掲示しておき、気づきが増えることで意欲を喚起したり、すぐに振り返ったりすることができるようにしておく。

#### ○ 思考ツールの活用の工夫

児童が課題を見つけたり、整理したりする際には、どのように考えればよいか分かり、考えやすくするために思考ツールを活用していく。今回は、集めたたくさんの秋のものを、どんなものがあるのかがわかりやすくなるようにX,Y,Wチャートを用いて分類していく。種類ごとに分かれていることで、活動のアイデアが生まれやすくなったり、活動がしやすくなったりすると考える。

#### 仮説②

探究心をもって、考えることを続けられるような支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

#### ○ 学習の見通しをもたせる工夫

児童が目的意識をもって学習に取り組み、意欲を持ち続けられるように、他学年の児童や保護者を招待して「秋のお楽しみ会」を行うという学習のゴールを設定する。ゴールの達成に向けての活動内容も伝えることで、見通しを持つことができ、主体的に取り組むことができるだろう。

○ 自分との関わりを深める工夫

児童の疑問や「もっとこうしたい!」という思いから、次の学習のめあてを立てる。児童の知的好奇心や探究心をもとにして、児童の思いや願いに沿った学習活動を設定する。

4 指導計画

単元 「すてきなあき みいつけた」

小単元 「あきのいきもの みいつけた」 5時間

・どんなところにいるのかな・・・2

・できたよ、むしのうち・・・1

・むしのふしぎをみつけた!・・・2

小単元 「あきのワクワクまつりをしよう」 26時間

単元名	時	学習内容と活動	評価の観点/評価の方法
アサガオ だいへんしん!	4	○アサガオの種とりと観察を行う。 ・まいた種を観察した時の振り返りカードと比較させる。(仮説②) ○採った種をどうするかを話し合う。 「来年の1年生にプレゼントしよう。」 「お家の人にあげたいな。」 ○種のプレゼント作りと、アサガオのつるでリース作りの準備をする。	・春にまいた種と、同じ形や大きさの種が採れることに気付いている。(気/発言分析) ・世話をやり通した自分の成長や友だちの良さに気付いている。(気/ワークシート・発言分析) ・思いを込めて育てたアサガオから採れた種をどうすればよいかを考えている。 (思/発言分析)
こんどはなにをそだてようかな	3	○秋にまく植物で、育ててみたいものを話し合う。 ・入学式の時にチューリップが咲いていたよ。 ・2年生がいちごを育てていて、やってみたくなったよ。 ○育てたい花や植物を決め、世話の仕方を調べる。 ○たねまきをし、世話を続ける。	・秋まきの植物に関心をもち、育てたい植物を選んで、世話をしようとしている。(関/行動観察・ワークシート) ・調べたり、考えたりしたことをもとにして、自分なりに工夫しながら育てている。 (思/行動観察・発言分析)
あきのみかくおいしいね	6	○さつまいもを収穫する。 ○さつまいもをどうやって食べるか話し合う。 ・誰と食べるか。 ・調理方法 ○さつまいもでミニパーティーを行う。	・さつまいもを掘ったり、つるで遊んだりすることを楽しんでいる。(関/行動観察) ・さつまいもを楽しく食べる方法を考えている。(思/発言分析)

あきさがしにでかけよう	4	<p>○秋にはどんなことがあるか、どんな秋を見つけたかをイメージマップに書き、秋への関心を高める。(仮説①)</p> <p>「お月見があるよ。」 「幼稚園のとき、ハロウィンパーティーをしたよ。」 「どんぐりを拾ったよ。」</p> <p>○校庭で秋みつけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の時の写真や動画と比較し、衣服・植物・聞こえる虫の音などの違いに気付きやすくする。(仮説②)</li> </ul> <p>○学校の近くを散策し、秋みつけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点ごとに分かれている掲示物と色ごとに分けたメモ用紙を用意しておき、すぐに書けるようにしておく。(仮説①, ②)</li> </ul> <div data-bbox="448 1014 828 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">さわったよ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">みつけたよ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">■ ■</td> <td style="text-align: center;">■ ■</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">■ ■</td> <td style="text-align: center;">⋮</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">においがしたよ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">きこえたよ</td> </tr> </table> </div>	さわったよ	みつけたよ	■ ■	■ ■	■ ■	⋮	においがしたよ	きこえたよ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然に興味を持ち、諸感覚を使って、楽しく遊ぼうとしている。 (関／行動観察・相互評価)</li> <li>・いろいろな色や形、大きさの葉や実があり、夏の時とは異なっていることに気付いている。 (気／発言分析・ワークシート)</li> <li>・見つけた秋を比べたり、たとえば、言葉で表したりすることができる。 (思／発言分析・ワークシート)</li> </ul>
さわったよ	みつけたよ										
■ ■	■ ■										
■ ■	⋮										
においがしたよ	きこえたよ										
みつけたあきであそぼう	9 (本時7/9)	<p>○見つけた秋の草花や木の実のできる遊びを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた葉や木の実の種類ごとに分類し、どんなものがあるかがわかりやすくする。</li> </ul> <div data-bbox="384 1592 930 1877" style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>色別</b></p> <p>赤</p> <p>黄色      茶色</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>種類別</b></p> <p>落葉</p> <p>松ぼっくり      どんぐり</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけた秋の物からどんな遊びができるかを考え、作ったり遊んだりしようとしている。 (関／行動観察・自己評価)</li> </ul>								

みつけたあきであそぼう	9 (本時7/9)	<p>○工夫して作ったり、遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うまかったことをミニカードに書き、他の友だちも参考にできるようにする。(仮説②)</li> <li>・P(よくできた) M(うまうまかかった) I(次はこうしたい)シートで振り返りをする。(仮説②)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の自然に興味を持ち、諸感覚を使って、楽しく遊ぼうとしている。(関/行動観察・相互評価)</li> </ul>				
		<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">P</td> <td style="text-align: center;">M</td> <td style="text-align: center;">I</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> </table> <p>○2年生を招待して、秋のものを使って一緒に遊ぶ「秋のお楽しみ会①」を開く。</p> <p>○保護者や地域の方たちを招待して、「秋のお楽しみ会②」を開く。</p>	P	M	I		
P	M	I					

## 5 本時の指導

### (1) 目標

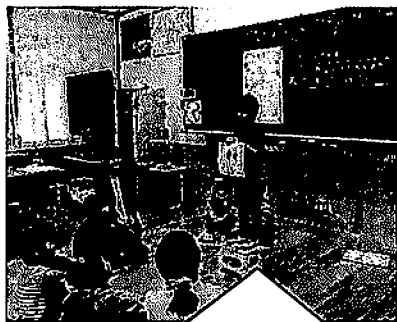
- ・秋の自然に興味を持ち、諸感覚を使って、楽しく遊ぼうとする。  
(生活への関心・意欲・態度)
- ・秋の自然と遊んだ楽しさや見つけた秋の良さを表現することができる。  
(活動や体験についての思考・表現)

### (2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価(評価方法)	資料
2	<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;">2年生と秋のもので楽しく遊ぼう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しがもてるようにこれまでの学習も振り返るようにする。</li> </ul>	前時までの掲示物
5	<p>2 見つけた秋を紹介する。</p> <p>「学校近くの神社でたくさんのどんぐりを拾いました。」</p> <p>「学校の坂道に、きれいな赤い葉っぱがたくさんありました。」</p> <p>「今日はどんぐりごまで一緒に遊びたいです。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表態度、声の大きさに気をつけるよう助言する。</li> </ul>	写真 児童の発表用作品



秋の木の  
実や葉な  
ど



C:「ぼくは、房総のむらでコナラを見つけました。コナラは丸い形のどんぐりです。」

T:「房総のむらはみんなも行ったことがある場所だよ。」

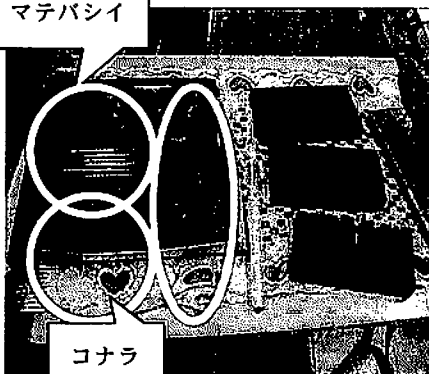
C:「全校遠足のときに行ったよ。」

T:「(全校遠足の時の写真を見せながら) みんなが全校遠足で楽しく遊んだあの場所に、こんな素敵なものがあるんだね。」

⇒見つけたものを伝えているときに、児童が実際に行った時の写真を見せることで、記憶と関連づけられ、より深い気付きへとなる。

- 30 3 2年生と秋の木の实や葉で遊ぶ。
- 「葉っぱを飾って、一緒にリースを作ろうよ。」
- 「こまの勝負ができるよ。一緒にやろう。」
- 「葉っぱでこんなこともできるよ。どうかな？」

マテバシイ



コナラ

- ・児童が秋のもので十分楽しめるように、たくさんの葉や木の実を集めておく。
- ・使いたいものが自由に使えるように、画用紙やグルーガンなどの道具はあらかじめ用意しておく。
- 身近な自然に興味を持ち、諸感覚を使って、楽しく遊ぼうとしている。(関/行動観察)
- ・1年生が2年生と一緒に楽しむとともに、自分たちが今まで遊んで楽しかったことを紹介したり誘ったりできるように適宜声をかける。



葉っぱを色・種類ごとに分類する。

(色...茶・赤・黄)

(種類...葉っぱ・松ぼっくり・どんぐり)

(形...丸形・細長い・大きい・小さい)

C:「コナラを使った方がよく回るよ。」  
 T:「どうしてコナラはよく回るの?」  
 C:「形が丸いからだよ。」  
 C:「細長いと倒れやすいんだよ。」

⇒勝負をする中で、よく回るこまを教え合っていた。そこで、よく回るという気づきを、どうしてよく回るのか、理由を考えさせてさらに深い気づきへと高めていく。  
 (仮説②)



- 7 4 活動の振り返りをする。
- 1年生は楽しかったこと、新しく見つけたこと、上手にできたことなどを伝える。
  - 2年生は1年生との活動に対するの感想を言う。

- 1 5 まとめと次時の予告をする。

○秋の自然と遊んだ楽しさや見つけた秋の良さを表現することができている。

(思・表/態度・自己評価)

- ・話がしやすいように、円になって伝え合う。
- ・まずは自分自身でどうだったかを振り返る時間をとり、自分の意見をもてるようにする。
- ・振り返りは、P(よくできた)、M(うまくいかなかった)、I(次はこうしたい)の3つの観点で振り返り、具体的に考えられるようにする。(仮説②)
- ・次回のお楽しみ会でも楽しく活動したいという希望をもたせるようにする。

## 第2学年2組 生活科学習指導案②

### 1. 単元名 「生きものはっけん」

#### 2 単元の目標

- ・生き物を（探し、捕まえ）飼育して、それらの育つ場所・変化や成長の様子に関心をもち、生き物に親しんだり、大切にしようとしたりする。（生活への関心・意欲・態度）
- ・自然のなかではどのような場所に住んだり、育ったりしていたのかを振り返ったり、調べたりして、生き物が好きな環境を工夫して作るなどし、適切にかかわることができる。（活動や体験についての思考・表現）
- ・生き物は生命をもっていることや成長していること、生き物と自分とのかかわりに気付くことができる。（身近な環境や自分についての気付き）

#### 3 仮説との関連

##### 仮説①

気付きを整理し、それをもとに考える際の支援を工夫すれば、気付きの質が高まり、深い学びにつながるだろう。

- 児童が気付いたことをすぐにメモをとれるようにし、一瞬一瞬の気付きがきちんと残るようにミニ観察カードを飼育ケースの近くに用意する。
- 児童から出る様々な気付きを、考えるための技法に対応した思考ツールを使うことで、気付きを明らかにしたり、そこから新たな課題を発見したりしやすいようにする。
- 自分の気付きとしての振り返りや自分の成長を感じることができるよう、できるだけ自分の言葉で表現する振り返りの時間を確保したり、ワークシートを用意したりする。また、無自覚だった気付きを明確にしたり、様々な気付きを関連付けたりして思考を整理していけるような考えるための技法とそれに対応した思考ツールを活用したりする。

##### 仮説②

探求心をもって、考えることを続けられるような支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

- 学習計画表を作り、学習に対しての目的意識とゴールを明確にすることで、主体的な活動になるようにする。
- 児童の「生きものを捕りに行きたい、飼いたい、調べたい」などの思いを大事にし、その思いを活動につなげることで、自ら学ぶ意欲をもち、それが継続していけるようにする。
- 生き物を実際に飼育することで、児童はすぐに観察することができ、様々な気付きをするだろう。そこで、その気付きから疑問（はてな）を持って探求心をもち続けられるような教師からの積極的な声掛けをしていく。

4 指導計画

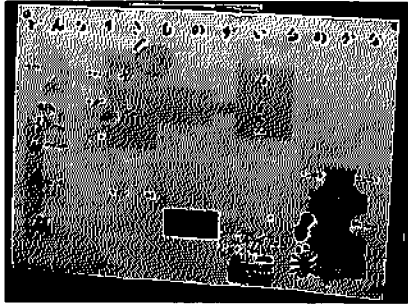
単元 「生きものはっけん」 総時数 19時間

小単元 「生きているってすごい」 15時間

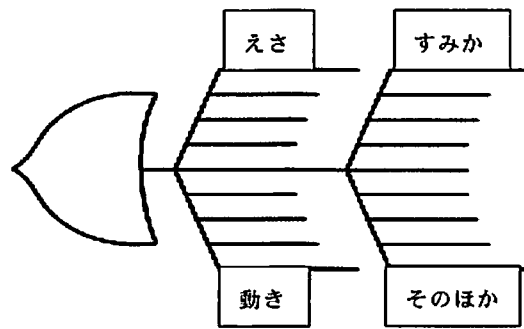
・どんないきものがいるかな・・・6時間

・大切に育てるよ・・・3時間

・生きものってすごいな・・・6時間

過程	○ 主な学習活動	○指導 ☆支援 評評価
<p><b>つかむ</b> <b>6H</b></p>	<p><b>どんな生き物がいるかな</b></p> <p>○ 学校や地域などの身近な場所に、どんな生き物がいるかを話し合い、場所ごとに分類する。(仮説①)</p> <p>・トンボ、ザリガニ、ダンゴ虫、カマキリ、カタツムリ、アリ、バッタなど</p> <p>《分類する》校舎の地図</p>  <p>○ 学習の計画を知る。(仮説②)</p> <p><b>見つけたよ!</b></p> <p>○ 捕まえる生き物に応じた準備を話し合う。</p> <p>・虫かご、虫とり網、釣竿、生きた餌など</p> <p>○ 1回目の生き物探しとして、「ヤゴ救出大作戦」を実施し、プールでヤゴを捕える。</p>	<p>○ 学校や周りの様子を描いた簡単な地図を用意し、どんな場所でどんな生き物がいたのかが分かるようにする。</p> <p><b>評</b> 生き物とそれらの住処、変化、成長の様子に関心を持ち、生き物に親しんだり、大切にしようとしていたりしている。(生活への関心・意欲・態度)</p> <p>○ 捕まえる生き物に応じた準備を確認する。</p> <p>☆ 必要に応じて、本や図鑑で調べられるようにする。</p> <p><b>評</b> 生き物とそれらの住処、変化、成長の様子に関心を持ち、生き物に親しんだり、大切にしようとしていたりしている。(生活への関心・意欲・態度)</p> <p>○ 転落、転倒などの事故がおきないように、安全上の注意事項を確認する。</p>

- ヤゴの飼育の仕方をえさ・住処・動きの特徴などから調べる。(仮説①)  
《多面的にみる》ポーン図



- 生き物の様子を観察するなかで、気付いたことを観察記録に書き、観察の視点ごとにまとめる。(仮説①)  
《多面的にみる》・・・くまで図

やご	うごき	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	体のようす	<input type="checkbox"/>	
	えさ	<input type="checkbox"/>	

※時系列で貼っていく。

☆ ヤゴのいる場所を自ら気付けるように、「どんなところにいるかな」「どうしたら捕まえられるかな」と聞くようにする。(仮説②)

**評** 生き物を(探し、捕まえ)飼育して、それらの育つ場所・変化や成長の様子に関心をもっている。(生活への関心・意欲・態度)

☆ ヤゴの飼育では、ヤゴの住んでいる場所の様子を思い出して住処を作るようにしたり、本や図鑑などで調べたりするように助言する。

**評** 生き物にあった世話の仕方が分かっている。(身近な環境や自分についての気付き)

- 生き物の様子がよく分かるように、虫めがねを用意する。
- 継続的に観察し、記録ができるように声をかける。また、一日の学校の生活の中で、観察や世話をする時間をとるようにする。
- 発見したことをすぐに記録できるように、ミニ観察カードと鉛筆を用意しておく。
- 生きものが死んでしまった際には、これま

	<p>○ 2回目の生き物探しでは、プール以外での生きものを探しに行く。学校のグラウンドや地域にいる生き物を探しに行く計画をたて、用水路にザリガニ釣りに行ったり、学校でダンゴ虫やバッタなどの生き物を捕まえたりする。(仮説②)</p> <p>○ 友達と生き物を見つけたり、捕まえたりする方法について情報交換をしながら捕まえる。(仮説②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンゴ虫は石や葉の下にいるよ。</li> <li>・ザリガニを捕まえたら、そっと糸を引き上げるといいよ。</li> <li>・ザリガニはびっくりすると後ろに逃げるから、網を後ろに置いておくといいよ。</li> </ul>	<p>での世話の仕方を振り返るとともに、世話を頑張ってきたことに気付かせるようにする。</p> <p>☆ なかなか発見できない児童には、友達が書いたカードを参考に見て、観察する視点を確認する。</p> <p><b>評</b> 生き物の特長や変化、成長の様子が分かっている。(身近な環境や自分についての気付き)</p> <p>○ 用水路では、転落、転倒などの事故がおきないように、安全上の注意事項を確認する。</p> <p>☆ 「どんなところに住んでいるのかな」「どうしたら捕まえられるかな」と聞き、児童が考えながら探せるようにする。</p> <p>☆ うまく捕まえられない児童には、ただ漠然と探すのではなく、それぞれの生き物が住んでいる場所に気付き、捕まえられるようにするために、虫にくわしい児童の経験や知識を生かすようにする。</p> <p><b>評</b> 生き物が自然のなかでは、どのような場所に住んだり、育ったりしていたのか振り返ったり、調べたりして、生き物が好む環境を作るなどし、適切にかか</p>
--	---	--

深める

3H

大切にしよう！

- 生き物が長く生きられるようにはどうしたらよいかを工夫しながら飼う。そのために、餌や住処などの必要なことが分からないときは、自分たちで本を使って調べる。(仮説①)  
《多面的にみる》ボーン図(上記の例のようなもの)

- 生き物の様子を観察するなかで、気付いたことを観察記録に書き、観察の視点ごとにまとめる。(仮説①)  
《多面的にみる》・・・くまで図

ざりがに	うごき	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	体のようす	<input type="checkbox"/>	
	えさ	<input type="checkbox"/>	

※時系列で貼っていく。

わっている。(活動や体験についての思考・表現)

- 生き物図鑑や資料などを司書教諭と相談して、用意しておく。
- 生き物を飼うのに必要なもので、自分で用意できるものは、子どもたちが準備するようにさせる。
- ☆ 工夫が思いつかない児童には、ヤゴの飼育の際、捕まえた場所と同じような環境を作ったことを想起させ、ザリガニの場合はどうしたらよいか考えさせる。

【評】 生き物とそれらの住処、変化、成長の様子に関心をもち、生き物に親しんだり、大切にしようとしていたりしている。(生活への関心・意欲・態度)

- 生き物の様子がよく分かるように、虫めがねを用意する。
- 継続的に観察し、記録ができるように声をかける。また、一日の学校の生活の中で、観察や世話をする時間をとるようにする。
- 発見したことをすぐに記録できるように、ミニ観察カードと鉛筆を用意しておく。

☆ なかなか発見できな

<p><b>広げる</b> <b>6H</b></p>	<p><b>生き物ってすごいな</b></p> <p>○ 生き物の様子で発見したことを伝えるための表現方法（動作化、クイズ、紙芝居、絵本など）を考え、まとめる。</p> <p>○ 「生き物はっけん発表会」を行い、生き物の観察をして発見したことを1・3年生に伝える。 ・ザリガニは驚くと後ろにサッと逃げる</p>	<p>い児童には、友達が書いたカードを参考に見て、観察する視点を確認する。</p> <p><b>評</b> 生き物の特長や変化、成長の様子が分かっている。(身近な環境や自分についての気付き)</p> <p>○ 伝えたいことが伝わるようにするための表現方法や工夫を考えさせる。</p> <p>○ 相手に上手に伝えることができるように、言葉、絵、動作化などの表現方法の支援をする。</p> <p>☆ 表現することが苦手な児童には、まず、これまでの観察カードをもとに伝えたいことを選ばせ、明確にさせる。そして、それを伝えるためにはどの方法が良いかを一緒に考える。絵を描くことが苦手であれば、写真を利用する。</p> <p><b>評</b> 飼育活動を通して発見した生き物の特長を工夫して表現している。(活動や体験についての思考・表現)</p> <p>○ 発表態度や、きちんと伝わるように声の大きさに気を付けるように助言する。</p> <p>☆ 発表が苦手な児童に</p>
---------------------------------	---	--



	<p>よ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンゴ虫は背中に模様があるものとなりものがあるよ。</li> <li>・カタツムリのうんちの色が変わったよ。</li> </ul>	<p>は、そばで支援をし、安心して発表できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 触れ合いタイムでは、2年生が中心となり、他学年の児童がきちんと触れるように声をかけるよう助言する。</li> <li>○ 他学年からの意見があったときには、それをきちんと聞くようにさせる。それが新たな気づきとなり、気づきの質を高めていけるようにする。</li> </ul> <p><b>評</b> 飼育活動を通して発見した生き物の特長を工夫して表現し、伝えている。(活動や体験についての思考・表現)</p>
--	---	---

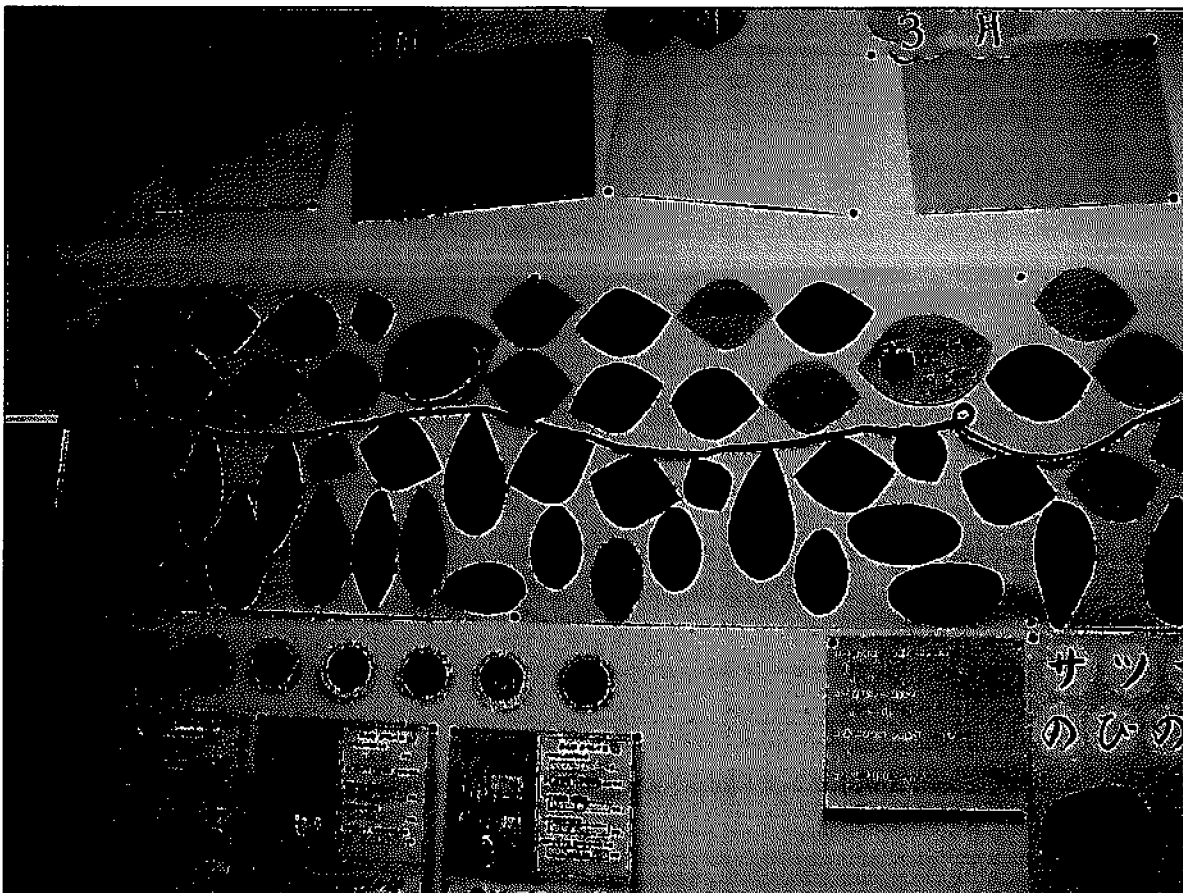
# 資料編

【仮説①】

気付きを整理し、それをもとに考える際の支援を工夫すれば、気づきの質が高まり、深い学びにつながるだろう。

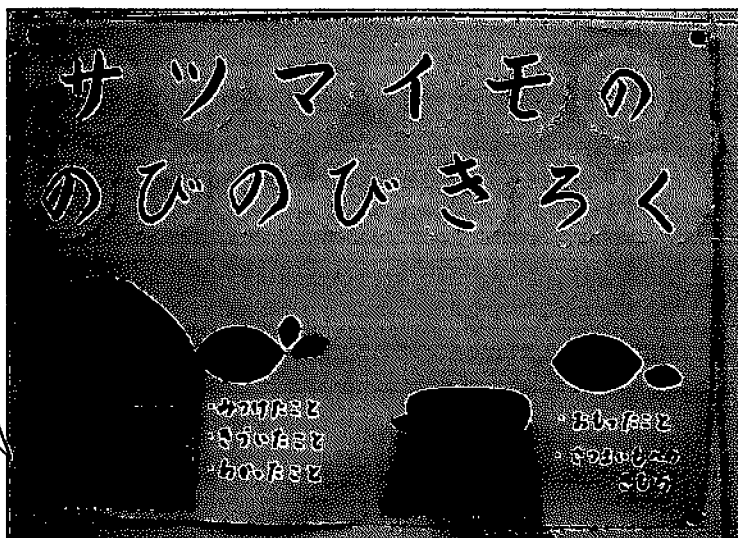
○ 場の設定の工夫

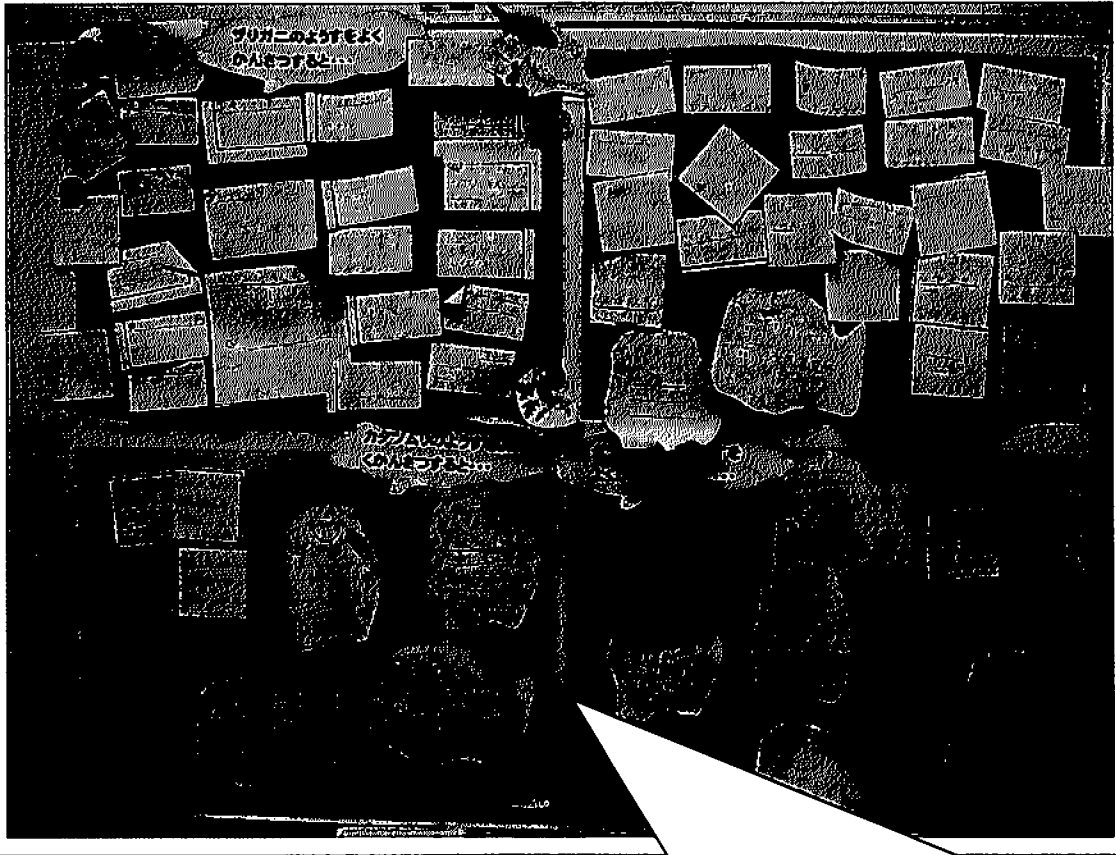
- (1) 児童が気づいたことをすぐにメモをとれる場を用意し、一瞬一瞬の気づきがきちんと残るようにする。



ミニカードは、書くことに抵抗のある児童や、朝や休み時間などの隙間の時間に気がついた児童が、時間をかけずに描くことができるので有効。

また、常時教室内に掲示しておくことで、気づきが増えていく実感を持つことができ、意欲が持続する。





児童の気づきにコメントを入れることで、児童から次の気づきを引き出したり、気づきが価値づけられたりして、気づきの質が高まっていく。

さらに、時系列でミニカードを並べて貼っていくことで、児童の気づきと生きものの成長や体の変化が関連づけられ、より深まっていくと考えられる。(→修正案を指導案②に)

(2) 自分の気づきを整理したり、新たな考えを生み出したりすることができるように、ペアやグループ、時には全体などで気付いたことを伝え合ったり、共有したりする。

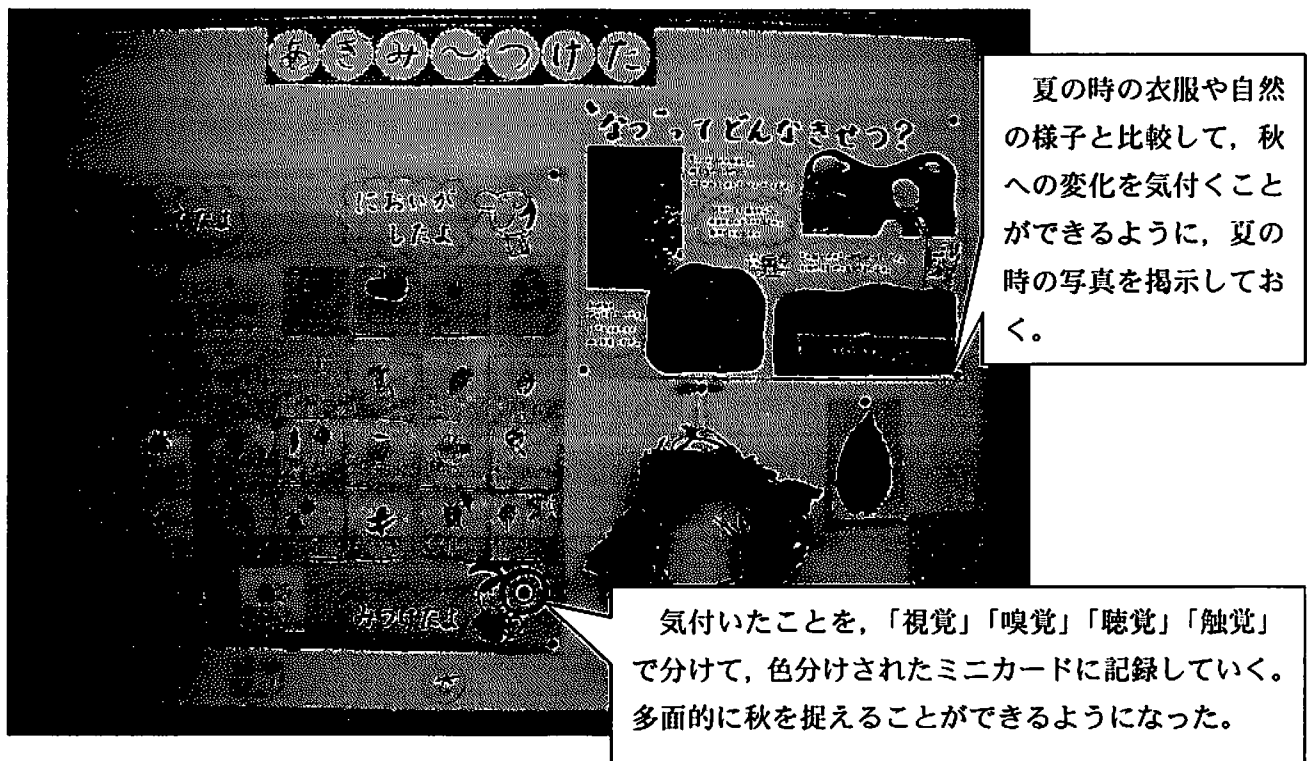
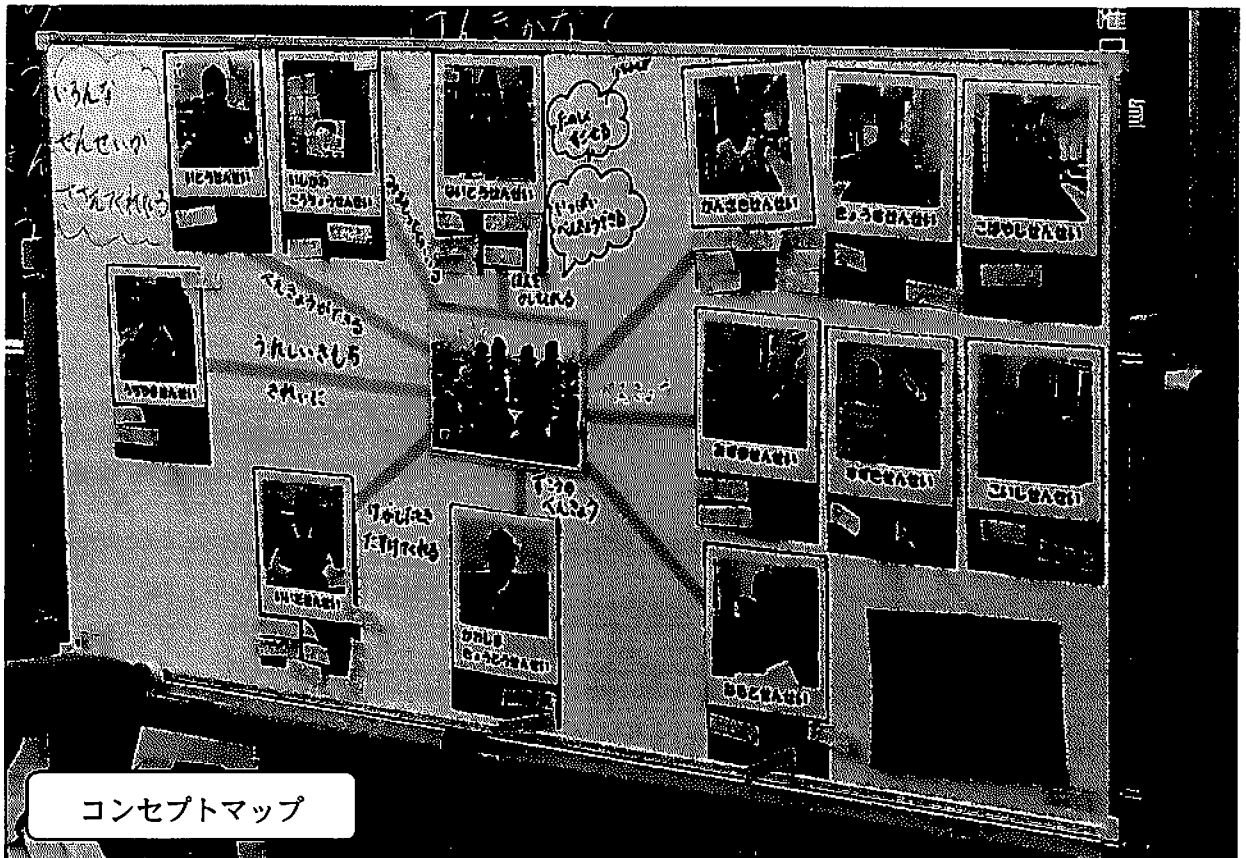


お互いの話が聞きやすいように、円を作ったり、机を無くして距離を詰めたりすることもある。



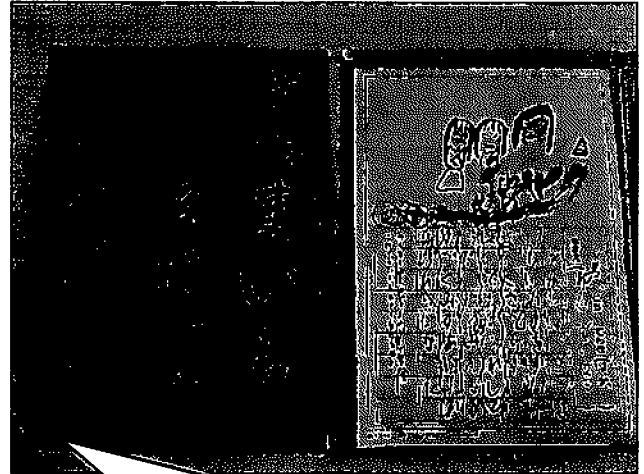
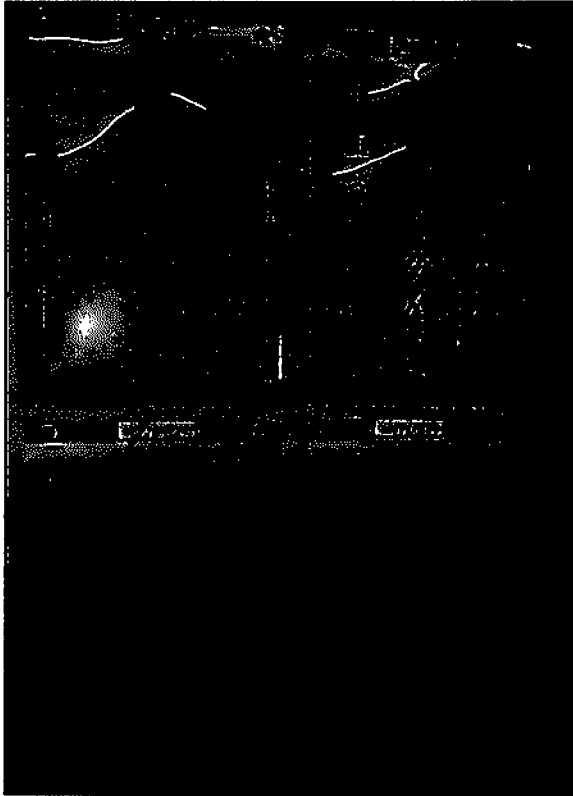
○ 思考ツールの活用の工夫

- (1) 児童が気づきを明らかにして、それを確かなものにしたり、そこから新たな課題を発見したりしやすいように思考ツールを用いた整理された板書や掲示をする。



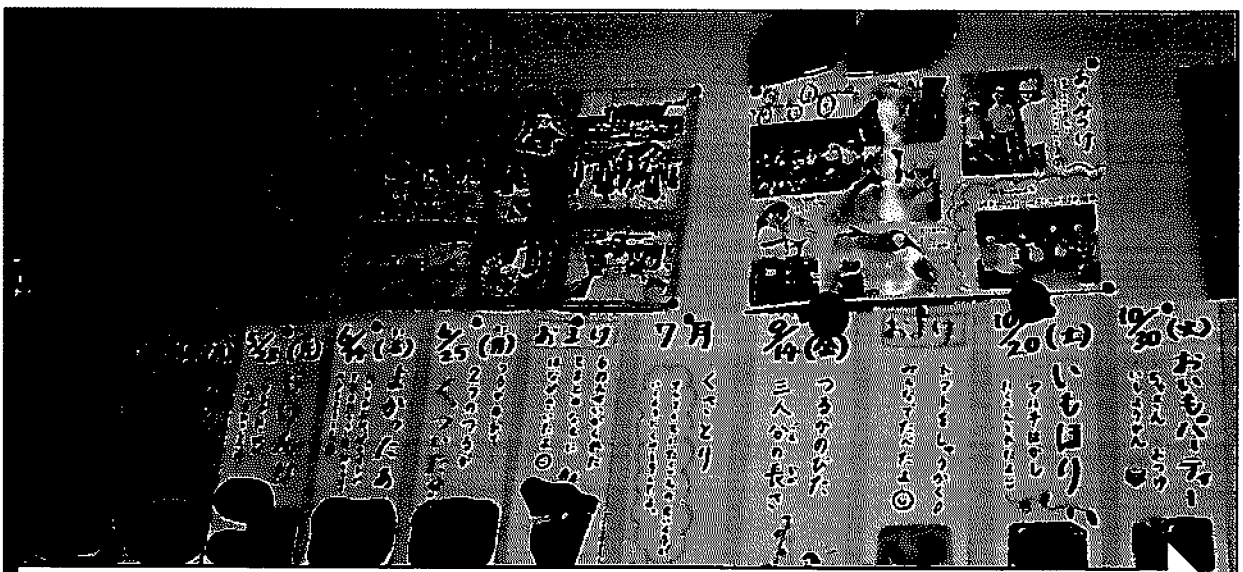
○ 振り返りの手立て

- (1) 自分の気付きとしての振り返りや自分の成長を感じられる振り返りができるように、できるだけ自分の言葉で表現させる。



観察カード、絵日記、ミニカードなど、子どもの実態や学習の内容によって使い分けて書かせた。書き溜めたものを見ながら、どのような変化があったのか、自分はどういう対象と関わってきたのかを振り返ることができる。

- (2) 振り返りしやすいように、できるだけ黒板や掲示物に学びの足跡を残すようにする。



子どもの活動したことや出来事を、写真とともに時系列で掲示しておく。

【仮説②】

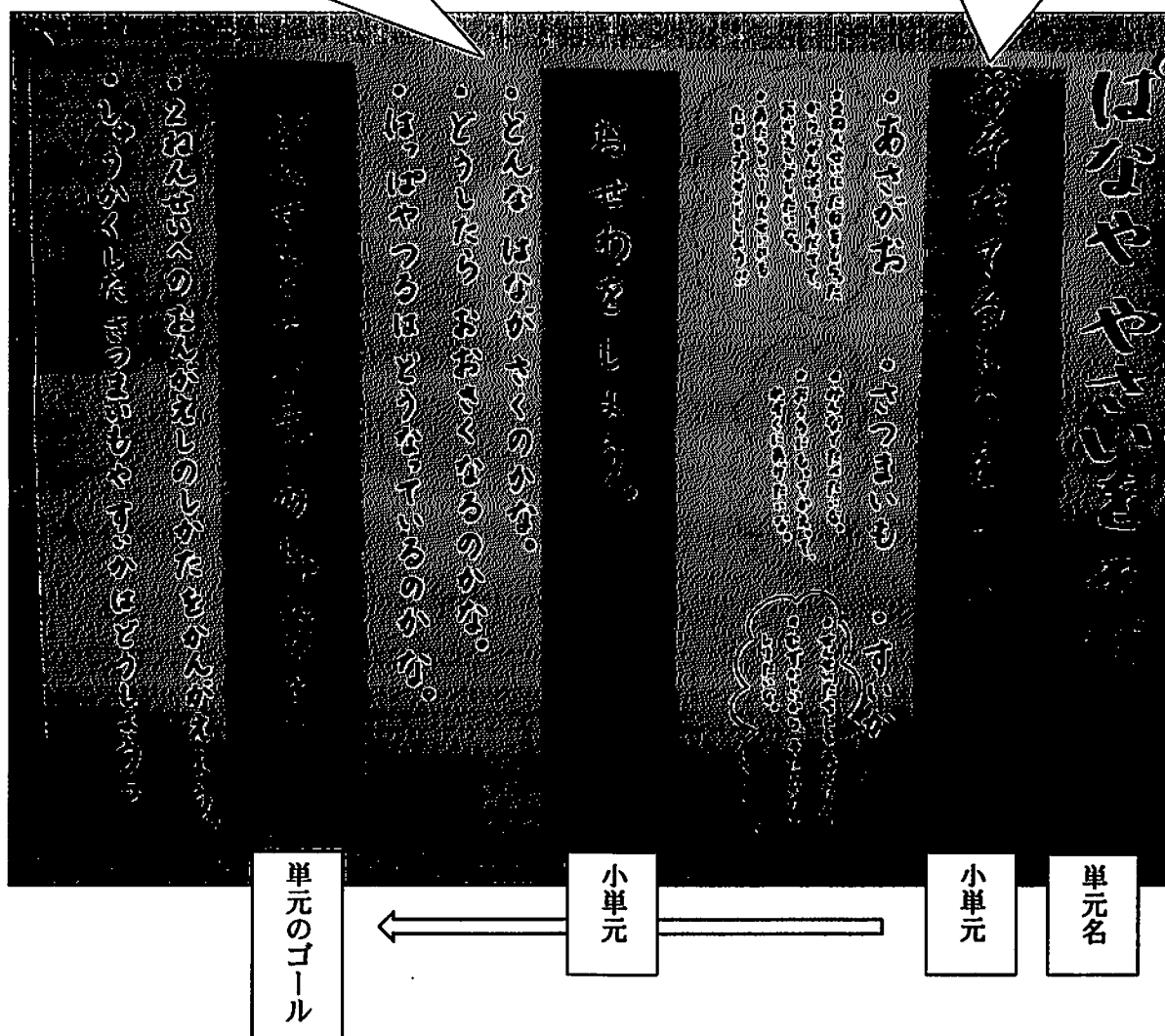
探究心をもって、考えることを続けられるような支援を工夫すれば、自ら思考することができ、深い学びにつながるだろう。

○ 学習のゴールをはっきりさせる工夫

- (1) 児童が目的意識をもって学習に取り組み、意欲をもち続けられるように、学習のゴールを設定し、その達成のためにどのような活動をしていくのかを伝える。

児童がどんなことを考えていくのかを示しておく。

終わった内容には印をつけていく。



○ 自分との関わりを深める工夫

(1) 直接対象に働きかけながら自分との関わりを深めることで、知的好奇心や探求心などを育めるように、児童の思いや願いに沿った活動や体験を展開する。

1年生「わたしのがっこう どんなところ」 学校探険



(2年生) ここは、保健室だよ。けがをしたときや具合が悪くなったときはここに来るよ。



(1年生) この楽器、初めて見よ。どんな音がするのかな？触ってみよう。

保健室にあった、赤いものって何だろう。もう一回聞きに行こう！

もう一度ガイコツ先生に会いたいな。

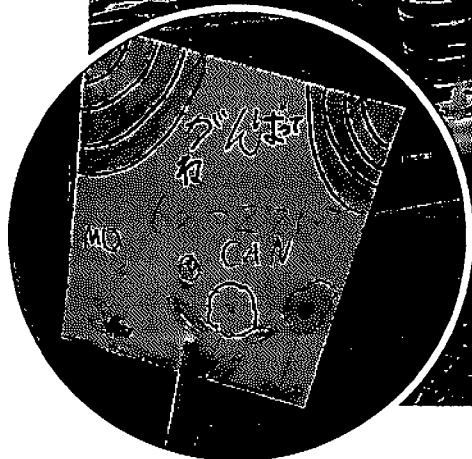
児童の思い

もう一度、探検に行こう！

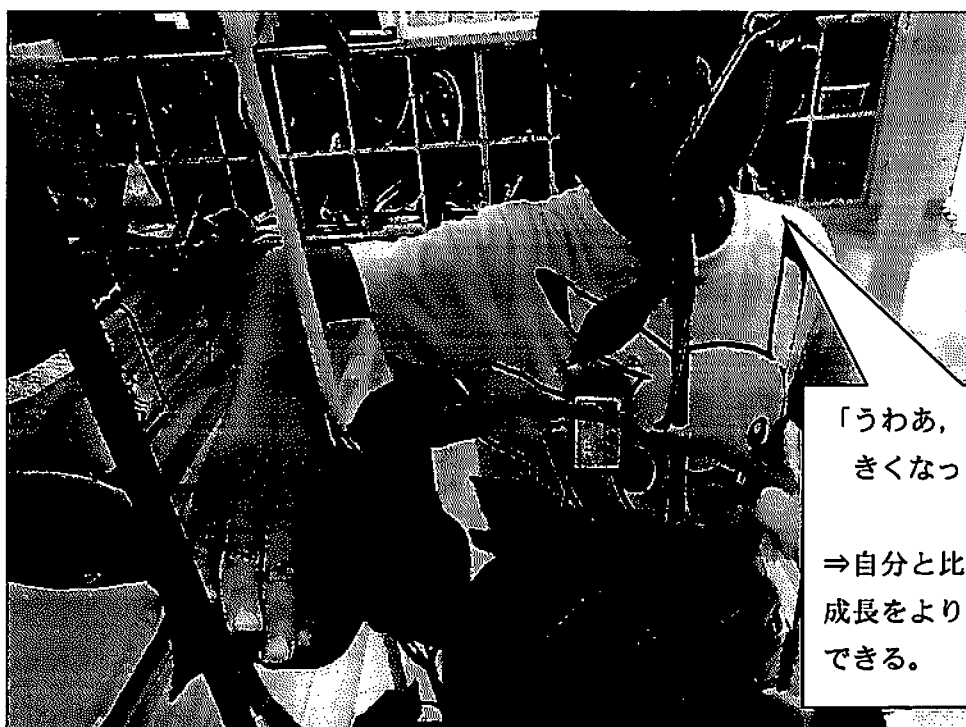




1年生「はなややさいをそだてよう」あさがおの栽培



名前をつけて、育てる植物に愛着を持たせる。



「うわあ、ぼくの手より大きくなってよ！」

⇒自分と比較することで、成長をより実感することができる。

1年生「なつとなかよし」「あきとなかよし」



梅ジュースづくり



柿の試食



本物に触れ、遊び、味わうなど、五感すべてで対象と関わることで、多くの気づきが生まれる。

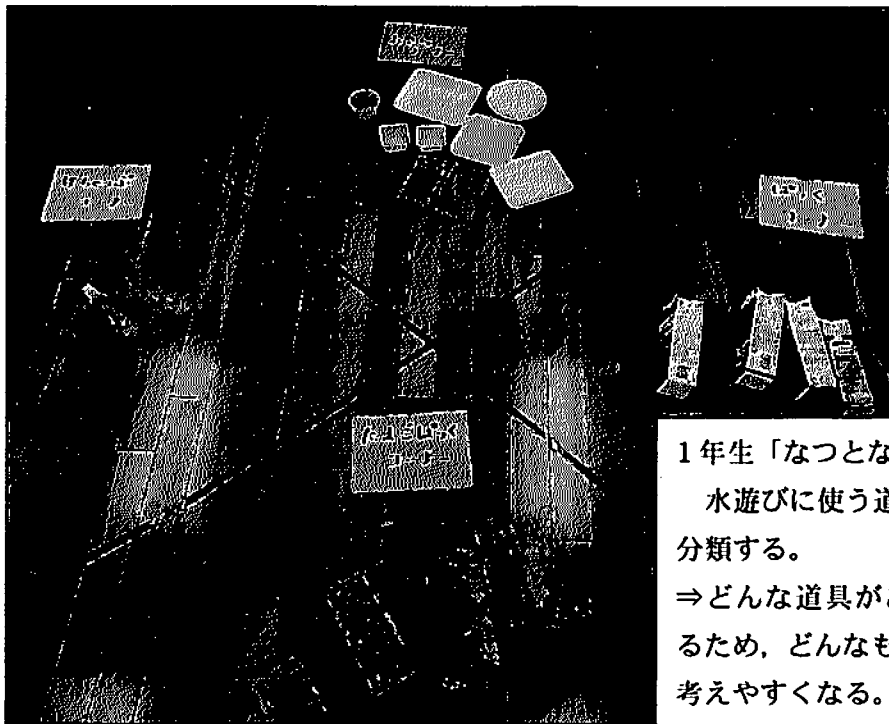
2年生「いきものってすごい」

ヤゴ・ザリガニの飼育

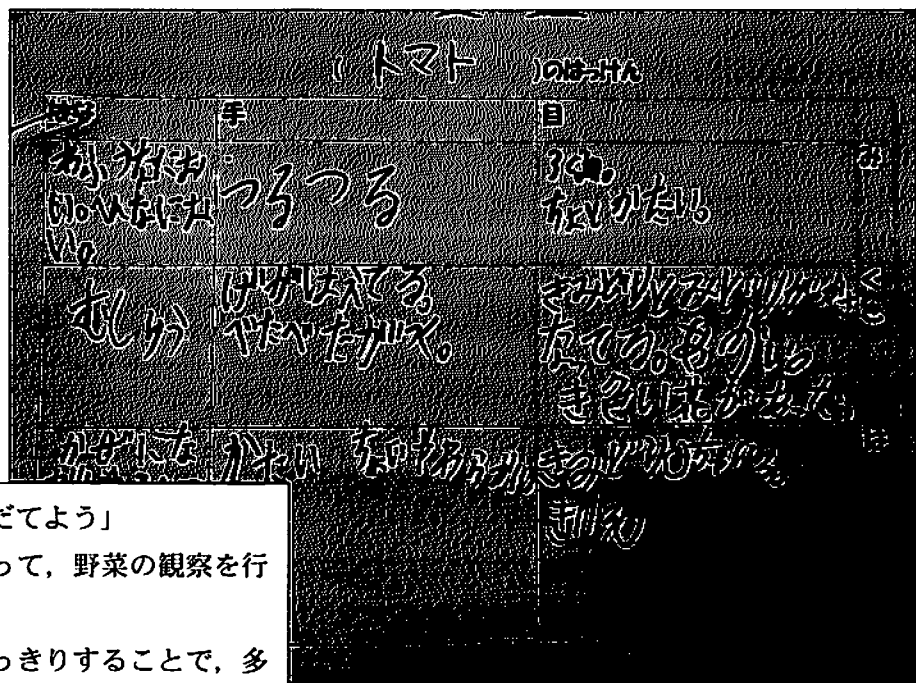


○ 思考ツールの活用の工夫

- (1) 児童が自ら課題を考え課題設定できるように、考えるための技法（例えば「比較する」「分類する」「関連づける」など）とそれに対応する思考ツール（ベン図・Xチャート・Yチャート・コンセプトマップなど）を使う。



1年生「なつとなかよし」  
水遊びに使う道具を、Xチャートで分類する。  
⇒どんな道具があるかがはっきりするため、どんなものを使って作るかが考えやすくなる。



2年生「やさいをそだてよう」  
マトリックスを使って、野菜の観察を行う。  
⇒観察する視点があきらかにすることで、多面的で具体的に観察することができる。